

NewsLetter

C O N T E N T S

ニュースレター

Vol.1

2016.8.31

サポセン
SAPOSEN
ふくしま地域活動団体サポートセンター

- p2 ー ●「資金調達」を学んでお悩み解決
～NPOの要の1つ“ファンドレイジング”～
- p4 ー ●資金調達成功事例!～クラウドファンディング～
特定非営利活動法人 **みんな共和国**
- p5 ー ●連携がますます深まる NPO中間支援センター
- p6 ー ●組織基盤がみんなのチカラ～認定NPO法人の紹介～
認定特定非営利活動法人 **なこそ授産所**
認定特定非営利活動法人 **パンダハウスを育てる会**
- p8 ー ●魅力ある地域づくりはNPOからはじめよう
NPO法人 **御倉町かいわいまちづくり協議会**
- p9 ー ●NPO×若者＝復興!!
- p10 ー ●NPOのマナビバ
- p11 ー ●サポセン月報 4月～7月
- p12 ー ●助成金情報

あらゆる形で活動を支援します。

～福島県のNPO法人の現状とサポセンの平成28年度の目指すところ～

○福島県のNPO法人の現状

県内のNPO法人数は平成28年3月末時点で875法人となっています。

震災後の平成24年度には福島県で初めて年間設立数が100を超えるなど、近年は復興に向けた活動や様々な地域活動を行うNPO法人が増加傾向にありましたが、現在は震災前と同様の水準に戻りつつあります。(図1)

NPO法人の皆さまの地域に寄り添ったきめ細かな活動は、本県の復興に向け大きな役割を果たしており、今後更なる活躍が期待されておりますが、一方で多くのNPO法人が自己財源に乏しく経営基盤が成長過程であるなどの課題を抱えているという声も聞かれます。

○サポセンの目指すところ

県では、県内のNPO法人が今後も安定的・継続的な活動を行っていくための支援として、「ふくしま地域活動団体サポートセンター」を設置し、経営能力向上のためのファンドレイジング(資金調達等)やNPO法人会計に関する講座、

NPO法人の横のつながりを深めるための情報交換会の開催といった様々な「場」の提供、さらには常設の相談窓口の設置など、あらゆる形で皆さまの活動を支援してまいります。

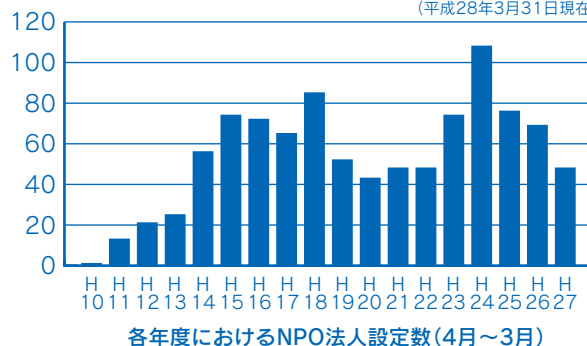
日頃の活動でお困り・お悩みごとなどありましたら、「ふくしま地域活動団体サポートセンター」を是非ご活用ください。

福島県文化振興課

URL : <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11055a/>

(図1) 福島県内年度別NPO法人設立状況

(平成28年3月31日現在)



ファンドレイジング 「資金調達」を学んでお悩み 解決

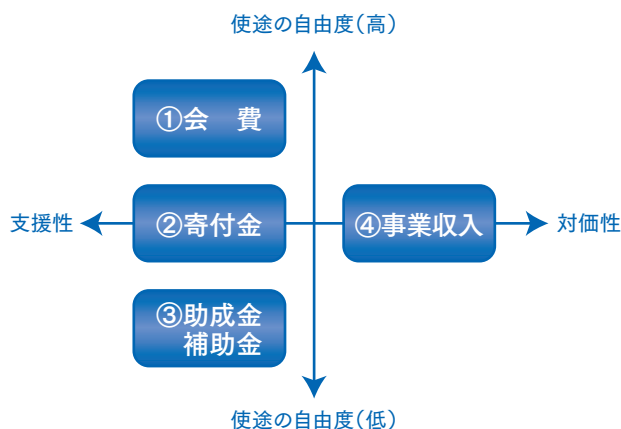
～NPOの要の1つ “ファンドレイジング”～

ファンドレイジング

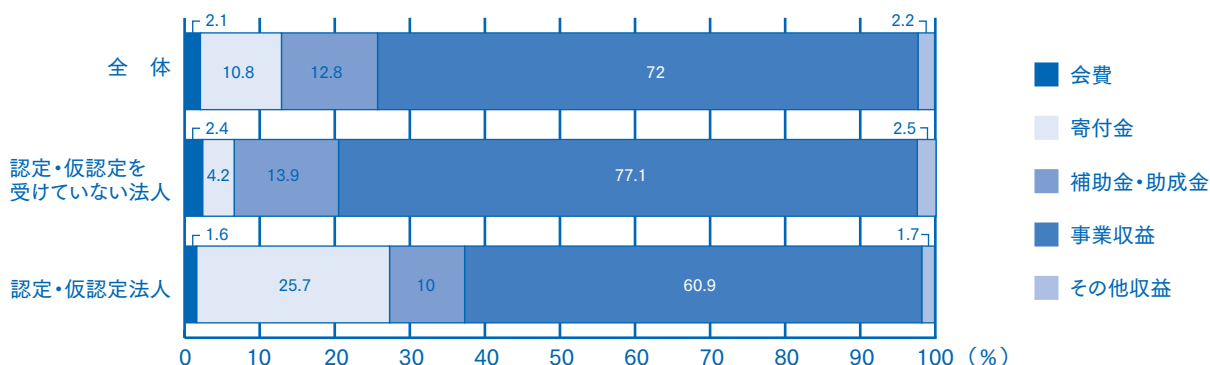
「ファンドレイジング」ということばは、おもに「民間非営利活動組織（NPO）の資金調達」という意味で使われます。内閣府がNPO法人を対象におこなった調査（注1）では、60％の法人が「収入源の多様化」を自団体の課題としており、多くのNPOにとって関心の高いテーマです。ファンドレイジングは単に「お金集めの方法」を考えるだけではなく、団体のミッション達成に向けて、多面的に戦略を立てることが必要となります。

NPOの財源

NPOの財源には、①会費、②寄付金、③助成金・補助金、④事業収入、⑤その他（借入金、金利など）があります〔図1〕。一般的に、①～③は直接的な見返りを目的としない「支援性の高い資金」、④は物やサービスの対価として支払われる「対価性の高い資金」とされます。NPOの活動の多くは、社会的弱者の支援やまちづくりの推進など、対価を得ることが難しい活動です。そのため、NPOの資金調達を考えるときには、「支援性の高い資金」に注目する必要があります。なかでも①会費や②寄付金は、使途の自由度が高く柔軟に運用できるため、ファンドレイジングにおいて大きなポイントになります。しかし実際のNPO法人においては、①会費と②寄付金をあわせても、収益全体の1.3割程度にとどまっています〔図2〕（注1）。ファンドレイジングでは、それぞれの財源の特徴を理解し、効果的に戦略を立てていくことが重要です。



【図1】NPOの財源の一般的な特徴



【図2】特定非営利活動事業収益の内訳（内閣府「平成27年度 特定非営利活動法人及び市民の社会貢献に関する実態調査」より作成）

会費と寄付

NPOへの金銭的支援の方法は「①継続的な支援(会費など)」と「②単発的な支援(寄付など)」の大きく2つの種類に分けることができます。NPOの会員制度は、継続的な支援の方法の1つです。会員制度は基本的には自由に設定できるので、団体の活動や規模にあわせて、会員の種類や特典などの団体の強みを活かした設計にしましょう。会員を増やし、会費を得ることで安定した財源確保が期待できます。単発的な寄付は、募金箱の設置やチャリティイベントなど一般的にイメージされるものが多く、支援者が参加しやすいことが特徴です。団体の目的達成に対する支援のほか「〇〇を購入します」というように特定の目標を掲げるなど、目的の明確化がポイントになります。

会費・寄付の両者とも、支援者とNPOとの出会いやきっかけ、さらには活動への理解・共感を得るための創意工夫と着実な努力の積み重ねが求められます。

クラウドファンディング

近年注目されている手法の1つにクラウドファンディングがあります。クラウドファンディングとは、「crowd＝群衆」と「funding＝資金調達」を合わせたことばで、「不特定多数の人々から資金を集める」手法・仕組みのことをいいます。不特定多数の人々を対象とすることで、一人ひとりはいくらでも全体として大きな資金を得ることが可能となります。「不特定多数の人々から資金を集める」という意味では、古くからおこなわれてきた方法ですが、インターネットの利用やクレジットカード等の決済手段の普及によって、広く多くの人々が寄付を身近におこなうことができるようになりました。インターネットでは、クラウドファンディングに取り組めるサービスが企業等によって提供されています。それぞれのプロセスやルールをよく理解してからチャレンジしてみましょう。なお、日本では法律等の制約から実際には「寄付」ではなく、そのアイディアに関連する物品や権利の「購入」という形で資金が提供される仕組みが多くなっています。

福島県でもクラウドファンディングによって目標金額を達成し、実現された事業やプロジェクトが多数あります。

次号へ続く…

今回は、会費と寄付、特にクラウドファンディングについて考えてみました。次回はファンドレイジングの視点から自分たちの団体に焦点をあてた設計の重要性について考えます。

注1 内閣府, 2016, 「平成27年 特定非営利活動法に関する実態調査 (NPO法人実態調査27年度版)」
URL: <https://www.npo-homepage.go.jp/toukei/npojittai-chousa/2015npojittai-chousa>

注2 日本ファンドレイジング協会, 2011, 『寄付白書2011』経団連出版

資金調達成功事例！

クラウドファンディング

特定非営利活動法人 みんなな共和国

「お金を集めようとするよりも、

共感する人を集めるのです」

はじまりは2011年3月11日発災から8か月後、有志で未来を語り合う「南相馬ダイアログ」でした。そのなかの「お父さん会議」から”子どもたちを安心して遊ばせたい”という声が大きくなり、さまざまな課題へ取り組み協働の体制が構築されていきました。その一つとして『じゃぶじゃぶ池』の取り組みが実現され、その活動はNPO法人の設立にもつながりました。いまでは南相馬市の子どもの環境整備に大きな役割を果たす団体に成長しています。

クラウドファンディングにチャレンジ！

じゃぶじゃぶ池の企画責任者を務めた近藤能之理事にお話を伺いました。

2012年の夏、ビニールプールに日が暮れるのも忘れてはしゃぐ子どもたちの姿に安心感のある水遊び場を作りたい！という思いが近藤さんの胸に熱く込み上げました。同時にお父さん会議の「子どもたちを安心して遊ばせたい」という願いも受けて『じゃぶじゃぶ池プロジェクト』は発足しました。

早速、近藤さんが好きだった札幌市郊外のモエ



近藤能之 理事

きFacebookでクラウドファンディングシステムの”READYFOR?”を知り、さっそく申し込みました。寄付画面のホームページ（HP）にプロジェクトがアップされると期間内に目標額を超える寄付金が集まり、資金調達に成功しました。全国から寄付が寄せられる過程で近藤さんたちは寄付画面のHPに毎日、毎日、情報をアップし続けることで、寄付をされた方へは報告、興味を持ってくれた方には広報として活用し、画面を通して生まれたストーリー性は、さらに共感の輪を広げていきました。

2013年夏、じゃぶじゃぶ池の工事は異例の速さで完成し、南相馬市の道の駅に隣接する高見公園にオープンを迎えました。そこに集つ



じゃぶじゃぶ池で元気に遊ぶ子どもたち



た市民の笑顔と仲間たちの涙は感動を共有した貴重な瞬間となり、復興の一翼となりました。

近藤さんはその後2014年秋にも”READYFOR?”にトライして、「子育て応援カフェ 37Cafe@park」の資金調達にも成功しています。現在も原町区北原にて水曜日曜日11時～16時で営業中です。店内では親子で遊べるスペースがあり、飲食もできます。土日にはWSも開催しています。詳しくは、37Cafe@parkホームページをご覧ください。【<http://37cafepark.com/>】

近藤さんからメッセージ！成功のヒント

キーワードは”共感と感動”です。共感することでは集まってきます。そして、資金は二次的についてきます。「感動を共有しましょう」と伝えることで仲間となった皆さんが完成を目指す力となりました。資金調達には「一人」が大事なのです。

※じゃぶじゃぶ池は平成25年11月20日に南相馬市に寄贈されました。



子育て応援カフェ 37Cafe@park
遊びのスペース



連携がますます深まる NPO中間支援センター

平成28年度 第1回 地域活動団体中間支援センター情報交換会

平成28年度「第1回地域活動団体中間支援センター情報交換会」が6月29日(水)郡山市ミュールがくと館大ホールで行われました。

今年度初めての情報交換会で、サポートセンターが開催した情報交換会で一番多い37名の出席者数でNPOや協働への関心の高さを伺うことができました。

まず文化振興課から福島県のNPO認証状況や解散の状況について、震災後増加傾向にあった法人認証数の伸び率は27年から震災前に戻りつつあることが報告されました。

続いて「各中間支援センター平成28年度事業および近況報告」が行われ、各センターの地域性や特色をいかした事業への取り組み方などノウハウを共有することができました。

また、行政の各担当者の方々にもお話しいただくことで、より市町のセンターの活用状況を知ることができました。

今年度は通常の情報交換会では「福島県NPOのつどい」(仮称)の開催に向けて、懇談会を設置しました。つどいは平成29年1月中旬頃の開催を目指し、県内のNPOの皆様にとって充実したコミュニケーションの「場」になるよ

う検討をすすめていきます。

今回の情報交換会は、予定していた会場を中ホールから大ホールへ変更を行うほどの多くの出席者の皆様に感謝しつつ、中間支援センターとしての多面的な事業の内容をあらためて確認することができた有意義な情報交換会となりました。

●つどい実施概要(予定)

時期:平成29年1月中旬頃 場所:郡山市

●参加者の声

「地域横断で官民そろってざっくばらんに話せる場は貴重」

「皆さんの状況を知る、顔を合わせることで連携しやすくなる」

「直接話を聞くことにより具体的な新しいアイデアに結び付けることができた」

●主な参加者

福島県内の中間支援センター／復興関連の各中間支援団体／中間支援団体委託市町／権限移譲市町の担当者など



権限移譲市町窓口紹介

平成28年4月1日から伊達市がNPO法人の申請・届出窓口が追加されました。現在以下の8市町が権限移譲されていますので、お近くの窓口で申請してください。

・会津若松市 ・郡山市 ・いわき市 ・白河市 ・二本松市 ・会津坂下町
・会津美里町 ・伊達市

※詳しくは、福島県ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11055a/np014.html>

内閣府NPOホームページ情報

○NPO法改正法案が公布されました

平成28年6月1日に、「特定非営利活動促進法の一部を改正する法律」が成立し、平成28年6月7日に公布されました。本改正法は、公布の日から起算して一年を超えない範囲内において政令で定める日から施行されます。※ただし、一部は、公布の日から、もしくは公布の日から起算して二年六か月を超えない範囲内において政令で定める日から施行されます。

*詳しくは、内閣府NPOホームページをご覧ください。

<https://www.npo-homepage.go.jp/kaisei>



組織基盤がみ

～認定 NPO 法

福島県内には認定NPOが16団体(平成28
NPO法人にはどのような発展や変化がみ
すをお聞きました。

認定特定非営利活動法人 いわき市 なこそ授産所

「認定特定非営利活動法人なこそ授産所」
は、障がい者の自立支援と子どもたちの健全
育成に関する事業を行い地域社会の福祉に
寄与する団体です。昭和55年に開所し、平成
18年法人格を取得、平成26年に認定特定非
営利活動法人として認定されました。理事長
の高村トミ子さんに認定を受けてからのようす
を伺いました。

Q.認定を受けて変化したことはありますか。
A.まず、職員の意識とやる気が変わってきまし
た。以前から地域交流を行ってききましたが、認
定を受けて、街頭募金活動への協力や地域
のお祭りへの参加などの社会貢献活動をより
積極的に行うようになり寄付も集まるようにな
りました。NPO法人化から10年以上が経過し
会員が減少傾向でしたが、認定となり新規入
会が少しずつ増えてきました。また、ホームペ
ージに「認定」の表記をしてから、お会いしたこ
とがない方からの寄付が増えてきました。



一生懸命作業に励むようす



「一年のしおり」や会報誌「授産所だより」で
情報発信!

Q.認定NPO法人の特性を活かした今後の活動に
についてお聞かせください。

A.福祉サービス事業の延長としてグループホーム建
設を行い、利用者の親なき後の生活の場を確保し
たいと考えています。また、中学生の実習受入や餅
つき大会等のイベントへの招待により若い世代に団
体の活動を知っていただく取り組みを行っていきま
す。さらに他団体と連携して勉強会を行うなど、より
一層活動の充実をはかっていきたいです。

●最後に認定NPO法人を目指しているNPO法人
へメッセージをお願いします。

「NPOの活動を見える化することが大事。寄付が集
まりやすくなります。」

認定特定非営利活動法人 なこそ授産所

【TEL】0246-84-7102

【URL】<http://nakoso-jyusanjyo.jimdo.com/>

みんなのチカラ

法人の紹介～

(2028年6月30日現在)あります。認定を受けた
みられるのでしょうか。2団体に認証後のよう



認定特定非営利活動法人 **福島市** パンダハウスを育てる会

「認定特定非営利活動法人パンダハウスを育てる会」は、福島県立医科大学附属病院で治療を受けている子どもとその家族をサポートするためのパンダハウスを管理運営しています。1995年任意団体として活動を開始、1997年にパンダハウスをオープン。2011年法人格を取得、2013年に認定を取得しました。理事の古関令子さんにお話を伺いました。

Q.認定を受けて変化したことはありますか。

A.増改築資金を募るにあたり、認定NPO法人は信頼性が高まり、寄付が集まりやすいただろうと考えました。認定NPO法人への寄付は税制優遇があることを記載したパンフレットを持って、企業や個人の方へ寄付をお願いするために訪問しました。増改築の目標額を達成し、認定後寄付を増やすことができました。また、ホームページ上の「認定」の表記を見て、思わぬところから問い合わせがくるなどのメリットを実感しています。



パンダハウス外観



施設に入るとぬいぐるみの
親子パンダがお出迎え

Q.認定NPO法人の特性を活かした今後の活動についてお聞かせください。

A.増築分の維持管理などに必要な経費も増えていくことと思います。今後は、直接的な支援を求めるだけではなく、ネット上での展開も必要だと思っています。一人でも多くの方々から、ご寄付いただけるように、多様な手法を検討していきたいと考えています。

●最後に認定NPO法人を目指しているNPO法人へメッセージをお願いします。

「寄付で活動を行っている方には、いろいろなメリットが得られるとてもよい制度だと思います。認定を取るときの最初の書類作りが大変ですが、2回目からは楽になります。是非、挑戦してください。」

認定特定非営利活動法人
パンダハウスを育てる会

【TEL】024-548-3711

【URL】<http://pandahouse.org/>

魅力ある
地域づくりは
NPO から始めよう

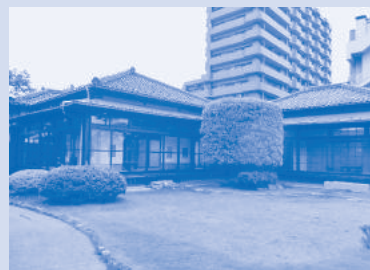
NPO法人
御倉町かいわい
まちづくり協議会
(福島市)

福島県庁に程近い阿武隈川隈畔を借景に純和風建築の旧日本銀行支店長役宅『御倉邸』は佇んでいます。日本に現存する当時の支店長役宅は新潟と福島の2カ所であることから、大変貴重な建造物として市民から親しまれています。その



蓮沼幹子 理事長

敷地内に「おぐら茶屋」は設置され、茶屋の運営をはじめ河川敷の景観形成や整備、イベント開催などに活動を広げているのがNPO法人御倉町かいわいまちづくり協議会です。蓮沼理事長にお話を伺いました。



旧日本銀行支店長役宅『御倉邸』

15年前、福島市が中心市街地の賑わい創出などを目的に、御倉邸とその周辺を整備し御倉町公園として開園したのを機に「自分たちが住む町を元気にしよう」と周辺住民の方々が熱い想いを持って立ち上がりました。

地域の歴史や文化にふれてもらうイベントの定期的開催、お休み処として設置された「おぐら茶屋」の運営、隣接する阿武隈川河川敷での花壇づくりなどの事業を展開し、子どもから大人まで誰もが訪れたくなるような魅力ある空間づくりに取り組んでいます。

活動開始から8年目の平成21年にNPO法人の認証を受けたことで、団体の情熱は「まちづくり」という社会的使命を帯び、助成金や補助金の獲得にも積極的になりました。

また、多様な団体と連携や協働をする機会も多くなり、事業の進め方などのノウハウを学びました。さらに、国土交通省から河川協力団体の認定を受けたことで、活動の広がりとともに信頼性が高まったと実感しています。

御倉邸の側で生まれ育ったという蓮沼理事長は「NPOが頑張ることとみんなに喜んでいただけたら嬉しいです」とお話の間は終始優しい笑顔を見せてくれました。魅力ある人々によって、魅力ある元気なまちづくりをめざして、団体のあらたな活動へのチャレンジは続きます。



展望デッキから見る阿武隈川の景観

NPO × 若者 = 復興!!

平成28年度NPO強化を通じた定着・地域活性化事業
「チャレンジインターンシップ事業」始まる!!



「チャレンジインターンシップ事業」は『若者の学び・体験支援』がテーマです。若者が、社会貢献活動や復興支援活動等を行う福島県内のNPO法人の活動に参加することで、地域の課題解決などについて学び、体験する機会を得ることができます。また、このインターン活動を通して、福島県の復興活動に貢献するとともに、福島への愛着心を育て、若者の福島県内への定着を目指しています。

主なスケジュール

6月6日(月)～6月24日(金)	学生募集
7月上旬	面接
7月中旬	学生選定・団体とのマッチング
7月26日(火)	開講式
7月下旬～9月上旬	インターンシップ実施期間
11月中旬～下旬	報告会・閉講式

チャレンジインターンシップ開講式

平成28年度「チャレンジインターンシップ開講式」が7月26日(火)郡山市ミュールがくと館大ホールで行われました。

昨年度に引き続き2回目のインターンシップ事業で、本年度は受入れNPO法人が16団体、インターン学生が32名(高校生11名、大学生21名)で、夏休み期間の7月下旬から9月中旬に1週間から10日程度のインターン活動を行います。

インターン学生からは、これからはじまる活動にむけての期待と熱く前向きな言葉を聞くことができました。サポセンではそれぞれの熱い夏を応援します。



壇上で活動の抱負を発表する
受入団体と学生のみなさん



事業説明を熱心に聞くみなさん

*「チャレンジインターンシップ」ウェブサイト
<http://f-intern.f-saposen.jp/>に活動の様子を掲載中です。
随時更新していきますのでご覧ください。



開講式の記念撮影「がんばるぞ、オーッ！」

NPOのマナビバ



～平成28年度講座のご案内～

※詳しくはチラシまたはHPをご覧ください。

連続講座

社会課題に取り組むNPOが自立的かつ安定的に事業展開できる手法を学び、組織基盤強化を目指します。

日時・場所	題 目	内 容
第1回 10月 6日(木) 郡山市 ミューカルがくと館 中ホール	組織使命	「社会を変える組織」としての“ビジョン・ミッション”の確認
第2回 10月26日(水) 郡山市 ミューカルがくと館 中ホール	マーケティング戦略	自団体の事業の“役割”と“提供価値”の検討
第3回 11月10日(木) 郡山市 ミューカルがくと館 中ホール	ゴール設定	「社会を変える」事業のための“指標(KPI)”づくり
第4回 11月22日(火) 郡山市 ミューカルがくと館 中ホール	ファンドレイジング戦略	効果的な支援獲得のための考え方と“資金調達計画”の策定
第5回 12月 2日(金) 郡山市 ミューカルがくと館 大ホール	実行計画	成果を出し続けるための“人材育成”と“組織体制”の最適化
第6回 12月15日(木) 郡山市 ミューカルがくと館 中ホール	最終成果発表会	中期経営計画の発表

〇昨年度講座受講者の声

- ・1つ1つをよく整理し、出来ること、出来ないこと、手段、手法を職員で共有しミッション達成に向け着実に実行していきたい。
- ・先を見据えた事業戦略について話し合う機会を設けたりすることがいかに重要なのかを再認識しました。
- ・“本気で学ぶNPOマネジメント講座”はタイトル通りアップテンポで熱量の高い講座だった。

人材育成講座 6回

NPOで働く皆さんの基礎から実践までを6回にわたり学びます。

日時・場所	題 目	内 容
第1回 10月 4日(火) 福島市市民会館 第2ホール	非営利組織概論 ～NPOと企業の違いは?～	「NPOって仕事になるの?」NPOにおける仕事の定義について学びます。
第2回 10月18日(火) 福島市市民会館 501号室	アイデア発想法入門 ～企画のたねをつくる～	「とりあえず、企画考えておいて」ワークショップで体験しながら、アイデア発想法を学びます。
第3回 11月 1日(火) 福島市市民会館 301号室	アイデアファシリテーション入門 ～企画のたねをまとめる～	「アイデアはいっぱい出たけど、結局どれをやるのかまとまらない」アイデアをプランにしていくなりのまとめ方を学びます。
第4回 11月15日(火) 福島市市民会館 第2ホール	プレゼンテーション入門 ～考えを言葉で伝える～	「せっかくプランを考えたのに伝わらない」NPOのことを知らない人にも活動を伝えるための方法を学び、練習します。
第5回 11月29日(火) 福島市市民会館 501号室	コミュニケーション入門 ～チームや外部の協力者を巻き込む～	「やる人がいなくて、仕事が自分に集中しちゃう」ボランティアやステークホルダーへの協力要請やチームのフォロー方法について考え、学びます。
第6回 12月13日(火) 福島市市民会館 501号室	企画書・申請書ライティング入門 ～プランを可視化する～	「考えはあるのに、書いたことないから申請書をつくれな」今までの講座を復習しながら考えを書類として形にしていくなりを実習をしながら学びます。

県内各地で開催予定の講座

講座(タイトル)	開催時期・場所
NPOの役員・事務局長講座 「機能する事務局と理事会とは?」事務局と理事会のあり方を考える。	9月28日(水) 喜多市厚生会館
SNS講座 「フェイスブックを学ぼう!」(初～中級編)	10月3日(月) 会津美里町公民館
NPO法基礎講座	11月 須賀川市
会計基準講座	開催予定
税務・財務講座	開催予定
ファンドレイジング講座	開催予定

※講座開催内容は変更する場合がございます。

助成金情報

チャレンジして
みよう!



これからでも申し込みできる助成金情報です。
内容は抜粋していますので、詳細については、実施団体やホームページでご確認ください。

◇その他の支援

東日本大震災復興支援 JT NPO応援プロジェクト 【支援元／日本たばこ産業株式会社】

対象事業／東日本大震災で被災した地域や人々を対象に、民間の非営利組織が取り組む「ひとり一人の想いを育むコミュニティづくり支援」とし、以下の何れかに該当するもの。

・自らの力でコミュニティづくりに取り組む住民を応援する事業 ・生活の課題を自らの力で解決することが困難な住民を支援する事業

●申込期間／平成28年9月26日(月)(当日必着) ●助成金額／1件あたり150万円以上500万円以下

●参考URL／<http://www.jti.co.jp/csr/contribution/support/npoukoubo/invite/index.html>

2016年度国内助成プログラム 【支援元／公益財団法人トヨタ財団】

対象事業／A.しらべる助成：地域課題の発掘やその解決のために必要な調査、および事業戦略の立案など本格的に事業を実施する前の調査を目的としたプロジェクト

B.そだてる助成：地域課題解決に向けた事業の立ち上げ、実施、拡大ならびにそうした事業の担い手となる人材を育てることを目的としたプロジェクト

●申込期間／平成28年9月30日(金) 15:00

●上限金額／A.しらべる助成：1件あたり100万円 B.そだてる助成：上限なし(2015年度実績2年間で平均597万円)

●参考URL／<https://www.toyotafound.or.jp/program/community.html>

SJF助成 第5回(2016年度)公募 【支援元／ソーシャル・ジャスティス基金】

対象事業／以下のテーマを対象としたアドボカシー活動

＜公募テーマ1＞「子ども・若者の未来に関する取り組み」 ＜公募テーマ2＞「原発事故による社会課題解決への取り組み」

＜公募テーマ3＞「見逃されがちだが、大切な問題に対する取り組み」

●申込期間／平成28年9月30日(金)(当日消印有効) ●上限金額／1案件あたり100万円 ●参考URL／<http://socialjustice.jp/p/2016fund/>

◇子どもの健全育成支援

子どもたちの“こころを育む活動” 【支援元／公益財団法人パナソニック教育財団】

対象事業／学校と家庭、地域、企業などのさまざまな団体が連携し、継続している活動。団体が行う子どもたちの“こころを育む活動”で、以下の「3つの工夫」があること ①進め方の工夫 ②連携の工夫 ③継続の工夫

●申込期間／平成28年9月30日(金)(必着) ●表彰内容／全国大賞：表彰状・楯、賞金100万円 優秀賞：表彰状・楯、賞金30万円

●参考URL／http://www.kokoro-forum.jp/project_kokoro/

◇環境の保全支援、子どもの健全育成支援

花王・みんなの森づくり活動助成 【支援元／花王株式会社 公益財団法人都市緑化機構】

対象事業／森づくり活動分野：植樹や樹木の管理、里山や雑木林などでの保全と復元活動など

環境教育活動分野：緑地や里山をフィールドとした環境教育活動で、植樹や里山保全活動などを通じて環境を大切にすることを育む活動など

●申込期間／平成28年10月14日(金)(当日消印有効) ●上限金額／1年目50万円(2年目50万円、3年目25万円)

●参考URL／http://www.kao.com/jp/corp_news/2016/20160802_001.html

◇保健、医療又は福祉の増進支援

平成28年度「元気シニア応援団体に対する助成活動」 【支援元／一般社団法人生命保険協会】

対象事業／構成員だけでなく、地域の高齢者を対象とした健康管理・増進、自立支援、生きがいづくり等の活動

●申込期間／平成28年10月31日(月)(当日消印有効) ●上限金額／1団体あたり15万円

●参考URL／<http://www.seiho.or.jp/activity/social/senior/guideline/>

※その他の助成金情報については当センターのホームページをご覧ください。

URL:<http://f-saposen.jp/category/subsidy/>

ふくしま地域活動団体サポートセンター

運営委託：福島県企画調整部 文化スポーツ局 文化振興課

運営受託：認定特定非営利活動法人ふくしま NPO ネットワークセンター

〒960-8043 福島県福島市中町8番2号 福島県自治会館7階

TEL.024-521-7333 FAX.024-523-2741

E-mail saposen@f-npo.jp URL <http://www.f-saposen.jp>

◆県内の認証 NPO 法人団体／883 団体

◆仮認定 NPO 法人団体／3 団体

◆認定 NPO 法人団体／16 団体

平成 28 年 7 月 31 日現在

編集後記

チーフになり初のサポセンニュースレターが発行になりました。サポセンも新しいメンバーとなり悩みながらでしたが、なんとかできあがりました。サポセンニュースレターは今後も発行を予定しています。まだまだ皆様からの情報をお待ちしています。よろしくお願いします。【野地】